



2023（令和5）年度

二中だより



第32号

2023（令和5）年12月1日 発行責任者 加賀谷 登

12月行事のご案内

11月1日発行の二中だよりで、西洋カエデが色づいて、秋の深まりを感じますとお伝えしました。すでに葉をすべて落としてしまったカエデもあります。短い秋が終わり、冬の到来を感じずにはられません。

今年も残すところ12月だけとなりました。主な行事をお知らせします。3日はリサイクル用品の回収となっております。ご多用中とは思いますが、ご協力よろしくお願い致します。5日から後期の中間テストです（1・2年は6日まで、3年は7日まで）。11日から15日まで三者面談を行います。担任から日程調整の連絡があると思います。よろしくお願い致します。22日は冬休み前の全校集会と生徒会役員改選立会演説会が行われます。現本部役員のみなさん、1年間大変お世話になりました。立候補を考えているみなさん、阿南第二中学校の次の1年をどんな学校にしたいか、しっかり考えて立候補してみてください。

人権教育講演会 11月22日（水）

「イギリス人から見た 日本」

フェネリー・マーク先生



「イギリス人から見た 日本」という演題で、ユーモアを交えながらお話ししていただきました。まず、母国であるイギリスの話や日本に来ることになったいきさつを話してください、雰囲気柔らかくしてくださいました。

来日してから現在に至るまでの話では、日本人の外国人を見る時の一般的な見方について伺いましたが、なるほどと思う内容も多かったようです。「阿南市でも徳島県全体でも多くの外国人を見かけるようになってきたけれど（来日当時は、阿南市に住んでいる外国人はすべて知っていたけど、今は数が増えて無理になってきた）、日本人が外国人を見る時の見方は変わっていないような気がする。たとえば、話しかける時はみんな英語を話せると勘違いしている。いまだにジロジロ見られたりするし、子どもが生まれる時はハーフはきれいだろうと勝手に思われていたので、ものすごいプレッシャーを感じた。長い間、木頭で生活し、今も訪れるのは、一人の人間として接してくれるから。」というようなお話をお聞きしました。

生徒たちも最後までしっかり聴くことができていました。



日	曜	12月の行事予定
1	金	全校集会・地域別生徒会⑤
2	土	数学検定9：00 テスト前部活動中止 市人協橋支部大会13：30
3	日	午前中3時間授業 リサイクル用品回収 家庭人権学習の日
4	月	振替休業日
5	火	後期中間テスト（全学年）
6	水	後期中間テスト（全学年）
7	木	後期中間テスト（3年）
8	金	
9	土	
10	日	市人協桑野支部大会14：00
11	月	三者面談
12	火	三者面談
13	水	1年人権講話②～④ 三者面談
14	木	三者面談
15	金	三者面談
16	土	
17	日	
18	月	生徒会専門委員会・いじめ防止委員会⑥
19	火	
20	水	学校安全の日
21	木	
22	金	生徒会役員改選立会演説会③④ 全校集会⑤ 大掃除⑥
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	年末休業日
30	土	年末休業日
31	日	年末休業日

毎月第一日曜日は、家庭人権学習の日です。資料をもとに各ご家庭で話し合ってみてください。今回は、「第40回全国中学生人権作文コンテスト」で文部科学大臣賞を受賞した福島県の中学3年生の作品を紹介します。

「名前」

結婚したらなんていう名前になりたい？

中学生女子のおしゃべりはいつも夢に満ちた恋や結婚への憧れがちりばめられている。

「神宮寺、なんてかっこいいよね。」

「私は好きな人の名前なら何でも！」

あまり近寄りたくない話題なのに、

「〇〇は？将来どんな名前になりたい？」

聞かれてしまった。うーん。言いよどむ私に一人が気を使ったように、〇〇はお家を継ぐんだよね。お嬢さんをもらうんから名前はそのままなんだよね、と言う。あ、そうなんだ。いいね。大人になってもSNSで探しやすいね、と誰かが言い、みんなが笑った。私もほっとしながら一緒に笑う。

私の家は400年以上続く神社の神主の家系で、その職を継ぐのは私の小さい頃からの夢だ。家族も地域の人たちもそれを喜んでくれているようでそれは私にとっても嬉しいことだ。しかし、時々ひっかかる言葉に出会うことがある。例えばさっきの「お嬢さんをもらう」もそう。確かに私の家はずっと「神職の〇〇家」で私には姉妹しかいないけれど、私が神社を守っていくのに「お嬢さん」は必要なのだろうか？

新聞やニュースで、「選択的夫婦別姓」という言葉を聞くことが多くなった。夫婦は同姓と定めている今の憲法下では、姓を変える側だけが多大な不利益を被ってしまうので議論が進んでいるらしい。日本には慣習的に女性が自分の姓を男性側に変えることが圧倒的に多く、その割合は96%。だからこれは女性の人権問題だとする声大きい。

だけど私には、残りの4%の数字が心にのしかかる。私は将来の夢を目指す限り、一緒になってくれる人に、たった4%の男性しか被らない不利益をお願いしなければならないのだろうか。考え出すと将来を思い描くことが少し嫌になってしまう。同じ悩みを抱えている人はいないのかと調べてみるとおんな意見、解決すべき様々な課題があった。旧姓の通称使用の限界。子の姓決定問題。婚姻に際し選ぶ姓は夫側でも妻側でも構わないのだからその点において公平だという主張もわかった。それでもなお私が将来の伴侶にどこか遠慮をしてしまうのには、もう一つ理由がある。

神社は母の実家で、父が姓を変えた。レアな4%の方だ。父に名前の変更は大変ではなかったか、とたずねたことがある。

「ありとあらゆる名義変更。友人や知り合いへの通知。親の説得、自己喪失感。確かに大変だったけど、それよりキツイのはね、」

父は少し間をおいて、お嬢さんっていうレッテルを貼られることだよ。と言った。お父さんとお母さんは、ごく当たり前、二人で独立した戸籍を作ったんだよ。その時に妻の姓を選んだ。ただそれだけなんだけど。

「でもお父さんはお嬢さんなんですよ？」

という私に父は急に真面目な顔で言った。

「〇〇、覚えておきなさい。結婚するすべての男性は花婿で、すべての女性は花嫁だ。その意味以外の婿、嫁という制度は今の日本には存在しない。婿に来た、とか嫁にもらった、という言い方をきくかもしれないけど、それは誰かを知らず知らずにおとしめ、不快にさせているかもしれないから〇〇はよく気をつけようね。」

はっとした。「お嫁さん」は私たちの日常でもよく聞く言葉だ。近所のおじさんは、ウチの嫁さんが、いつも言っている。父の言うことを考えると、それすらも先入観と色眼鏡を通した言葉になってしまう。

以来、ずっと婿や嫁という言葉について私は考え続けている。古い日本の家父長制度の慣習だった嫁入り、婿入り概念が令和の今も残っている。私の住むような田舎の地方では、今もなお、苗字を変えた男性は「お嬢さんなんですね」と揶揄され、女性は「嫁」としての役割を背負わされがちだ。「お嬢さんだからかわいそう」「お嫁さんだから名前を変えて当然」悪気はなくても、勝手に貼ったレッテルで誰かの社会的立場を決めつけることでやはりその人の人権をないがしろにしているのではないだろうかとは私は感じている。

間違っただけの思い込みを誰かにぶつけること、それが「差別」だと思う。そして差別意識は人権の無視に他ならない。選択的夫婦別姓についての議論もこれからますます必要になるだろう。それと同時に、夫婦がどちらの姓を選んでもそれが当たり前になるよう、社会の成熟を促すことも急務だ。

もちろん私だって、中学生女子的「好きな人の苗字になりたい」も素敵な気持ちだと思う。でも苗字がどちらでも、将来のパートナーと私はどんな時も対等でいたい。

だからまず私から、偏見を含んだ言葉を人に向けないこと。間違っただけの思い込みをしていかないか常に見直すこと。私の夢を応援してくれる周りの友達にも、私の考えていることを伝えていこう、と思っている。